

研修報告書

私高橋は、4月10日（木）11日（金）に滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所で開催された**平成26年度第1回市町村議会議員特別セミナー**に参加しました。その内容について報告します。



セミナーのテーマ「地域再生・まちづくり」

人口減少や景気の低迷など地域経済が厳しい状況が続いているなかで、地域の資源や人材を有効活用し地域の元気を取り戻すことが求められている。そのなかで議員の役割について学ぶことを目的に開催された。

研修1 「地域再生への道～人と人がつながる・ふるさとこそが最前線～」

講師 京都造形大学芸術学部教授・株式会社studio-L 代表取締役の山崎亮氏氏は全国初の「コミュニティ・デザイン学科設立」したことで有名。全国各地でまちおこしに関わり、島根県海士町の総合計画でグッドデザイン賞を受賞している。また、著書「コミュニティデザイン」「コミュニティデザインの時代」はまちづくりのバイブルとなっている。

今回の講義では、大阪泉佐野市での公園づくりの事例「大阪府泉佐野で広大な緑地を公園に変えるため、市民公募のパークレンジャーを毎年30人募集、1年間11回の講座を開催して養成し、公園づくりに参加してもらう。そうしたことを10年間続け公園を作る計画。10億かかる建設費を2億円に抑さえ、維持管理費を加えても半額以下でできるとのこと。」、東京都立川市子ども未来センターの事例「駅前再開発で市役所・市民会館が駅北側に移転、跡地の建物の活用策を公募。立川が漫画の聖地としてマニアに有名との地の利を生かしてまんがパークをコンセプトに市民の参加を募り参加者のアイデアを生かし、まちの賑わいをつくりだした事例」、広島愛媛両県をまたがる島々の活性化事業「瀬戸

内しまのわ 2014」、香川県観音寺町のまちなか再生計画など氏が手がけた多くの事例を紹介、住民主体のまちづくりの手法、成功の秘訣について話された。



講義2 「伝統行事で地域活性化を～寂れた花街嶋原復活奮戦気～」

講師としては異色の京都の花街嶋原の司太夫さんでした。本名は中川幸永、現在日本に3人しかいない太夫の一人です。

嶋原は日本最古の花街ですが京都郊外にあるということで寂れて、お茶屋は1軒だけとなりました。この寂れた花街嶋原を復活させるために伝統行事の復活などに取り組んでいます。個人新聞の発行配布からメディアへのアプローチ・出演などで、最初は一人からの取り組みから徐々に仲間を増やしていったそのバイタリティに感心しました。講義の最後に舞も披露してくれました。また自らもまちづくりを学びたいと最後までセミナーを受講しておりました。



講義3 「地域再生の課題～農山村を中心に～」

講師 明治大学農学部教授小田切徳美氏 専門は農政学・農村ガバナンス論

農山村の実態から、地域再生のフレームワーク（主体・場・持続条件の3つの要素を組み立てること）、いま新しい動きとして若者の田園回帰がはじまっていることを紹介。国が農山村を食料・エネルギー・水・CO₂の供給源として位置

づける必要があり、都市と農村の交流をいかに進めていくかが地域活性化のポイントとなると述べた。

地域再生の課題についてその要因から現状、方法論まで論理的・体系的に解説をしてくれ大変勉強になる講義でした。

講義4 「金沢市政にかける想い」

講師 石川県金沢市長山野之義氏

1962年生まれ、慶応義塾大学文学部卒。ソフトバンク株式会社勤務を経て、1954年金沢市議会議員選挙に立候補・初当選。市議4期を経て金沢市長選に立候補、現職を破って初当選。現在1期目。

金沢市のプロモーションを中心にお話された。金沢市のまちの特性を歴史・伝統文化・風習・学術のまちとし、文化的景観の保存と開発の調和を図っている。ユネスコ創造都市にも登録された。

民間会社出身まだ1期目の市長ですが、歴史と文化のまち金沢を精力的に宣伝、観光客の呼び込みに取り組んでいる。来年は北陸新幹線も開通の予定で、プロモーションイベントを多数企画実施している。市単独でなく周辺自治体とのコラボを組み広域観光に取り組むなどバイタリティとアイデア豊かな取り組み、新しいものに挑戦する気概にさすが民間企業出身の市長と感心しました。



感想・参考となったこと

今回のテーマに沿った「地域再生・まちづくり」の講義で、地域活性化の取り組みの参考となるお話をたくさん聞くことができました。今回のセミナーでは、各地の成功事例、ひとづくり、理論的裏づけ、そしてプロモーション手法とそれぞれ参考となる講義ばかりで、大変身になり頭の栄養をえることができました。ここで学んだことを地域活性化の実践に結び付けていきたいと思います。